

VISTA 8 ユーザーレポート

札幌テレビ放送株式会社 様

VISTA 8

Tサブに VISTA 8 を採用



■ Tスタジオ・サブ

札幌テレビ放送株式会社
技術局 制作技術部
加藤慎太郎



はじめに

札幌テレビでは2006年の地上デジタル放送開始に向けて、今年3月にTサブ(制作サブ)をHD化し、音声卓は長年親しんだアナログからデジタルコンソール VISTA 8 に変わりました。

音声卓の選択基準

音声卓を選考するにあたって一番重要視した事、それは応用性(自由度&将来性)が高いことです。地方局の場合、何処も同じ悩みを持っていると思いますが、更新の機会というのは滅多にありません。また、一度導入した機器は今後20年近く使用する事が予想されます。しかも、サブで放送する番組は、生放送のワイド番組から、音楽、選挙、スポーツと扱う守備範囲はと

ても広範囲です。一言でいえば、一芸に秀でた物よりは万能なコンソールでなければならないという事です。自由度が高くて、使いやすい。そんなコンソールを探した結果、この VISTA 8 を採用する事になりました。

最大の特徴

今回この音声卓で一番気に入ったところは、コンフィグを複数持てる事です。通常、導入時の仕様で決まってしまう AUX や BUS の数が、コンフィグを変更する事で仕様が変わります。言い換えれば、全く別なコンソールに変身します。10年先の放送形態がどうなるか未知な部分が多い中で、このシステムは非常に頼りにしているところです。現在、3つのコンフィグ(生放送用、音



■ゆとりある音声エリア



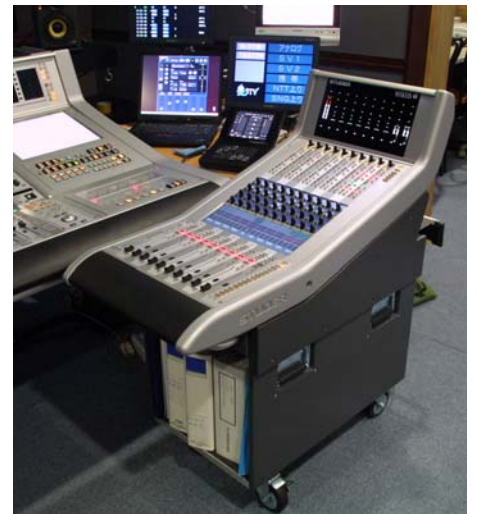
■リモートベイ背面



■カスタム SW パネル



■ステージボックス



■リモートベイ専用台を用意

楽番組マルチ収録用、サラウンド対応用) を使用していますが、特にトラブルも無く、快適に運用できています。

オペレートについて

VISTONICS という液晶をつかった操作面は、スチューダー独自のシステムですが、誰もが直感的に触ることができ、アナログ卓にしか馴染みが無かったミキサーの方々にも非常に好評です。しかも、見た目もとてもかっこいい。もちろん、一番大事な音についてですが、こちら素直な音質で気に入っています。

最後に

当社屋内には460人を収容できるホールスタジ

オと1800人を収容できるイベント会場「スピカ」があり、コンサートやイベントの収録、24時間TVなどの生放送も行っています。今回、これらの番組に対応するために、ステージボックスと、リモートベイも導入しました。どちらも光カメラケーブル1本で運用可能であり、社内の端子盤を経由してメインミキサーからリモート制御可能なすぐれものです。これらの機材の導入により、これまで出先で用意していた機材が減り、スタンバイ時間が大幅に削減されました。

導入して半年たち、まだまだ本来の機能の半分も使えていませんが、機材は良いのに腕はね…?と言われることのないように、頑張っていきたいと思えます。



■隣接する「スピカ」